

リタケデザイン100年の歴史

オールドリタケからダイナーウェアまで

2009年4月18日[土]～8月30日[日]

5階 オープンギャラリー

—オールドリタケ、デザイン画帖を公開—



デザイン画帖 (1905年)



主 催：名古屋ボストン美術館、朝日新聞社
特別協力：株式会社ノリタケカンパニーリミテド
協 力：株式会社大倉陶園、TOTO株式会社、
森村商事株式会社
協 賛：野崎印刷紙業株式会社

【開館時間】 平 日：午前10時～午後7時
土・日・祝・休日：午前10時～午後5時（入館は閉館の30分前まで）
【休 館 日】 月曜日（祝日・振替休日の場合はその翌日）、年末年始
【入館料金】 一般：1,200円（1,000円） シルバー・学生：900円（700円） 中学生以下：無料
●上記料金で4階展示室もご覧いただけます。
6/23～7/17の「ノリタケデザイン100年の歴史」展のみの開催期間中は
一般：800円（600円） シルバー・学生：600円（400円）
（ ）内は団体および平日午後5時以降の割引入館料金、シルバーは65歳以上
【交通案内】 JR東海道・中央本線／地下鉄名城線／名鉄名古屋本線「金山」駅下車南口前
【お問合せ】 〒460-0023 名古屋市中区金山町1-1-1
TEL 052-684-0101 FAX 052-684-0738 <http://www.nagoya-boston.or.jp/>

 **名古屋ボストン美術館**
NAGOYA / BOSTON MUSEUM OF FINE ARTS

色絵エナメル金点盛薔薇文双耳花瓶
(1891-1921年)

展覧会概要

オールドノリタケ、デザイン画帖からディナーウェアまで ノリタケデザイン100年の歴史を大規模に展覧する初の展覧会

1904(明治37)年、名古屋則武の地に創立された日本陶器合名会社(現 株式会社ノリタケカンパニーリミテド)は、日本初のディナー皿を開発し、多くのディナーセットを製造して、わが国の洋食器産業の礎を築いてきました。なかでも明治末期から昭和初期に製作された陶磁器は、現在では「オールドノリタケ」と呼ばれ、その職人技を駆使して作られた精緻で美しい品々は多くの人々を魅了しています。

本展では、(株)ノリタケカンパニーリミテドの全面協力により、同社が所蔵するオールドノリタケをはじめ、デザイン画帖や花瓶、壺などのファンシーウェアからディナーウェアまで約200件の作品により、華やかなノリタケチャイナの全貌をご紹介します。

海を渡ったデザイン画帖

輸出陶磁器であった製品を製作するために、森村組は日本人のデザイナーをアメリカへ派遣し、アメリカ人好みの意匠を描かせました。こうして完成したデザイン画は日本へ送られ、それを忠実に再現して製品化されました。

太平洋戦争時には名古屋の日本陶器本社も空襲にあい、画帖が保管された事務棟にも火の手が上がりました。しかし当時の職員によって火災から奇跡的に救出され、現代へと受け継がれました。本展では、これらを調査研究し、初公開を含む約40冊を展覧します。



デザイン画帖(1905年)



見本帖(1907年)

オールドノリタケとは…

「オールドノリタケ」とは、1876(明治9)年に創業された森村組と1904(明治37)年に森村組が創立した日本陶器合名会社において、明治から昭和初期にかけて製作された陶磁器の総称です。

アール・ヌーヴォーやアール・デコなどの美術様式を取り入れ、金彩やエナメル盛り、素描(すがき)、ラスター彩など多彩な技法で華やかに加飾され、アメリカを中心とする海外へ数多く輸出されました。

第I章 モリムラブラザーズの創業

幕末の動乱の中、海外貿易を志した森村市左衛門は、弟の豊とともに1876(明治9)年東京銀座に森村組を創業しました。その後アメリカでの販売拠点としてニューヨークにモリムラブラザーズが設立されます。創業当初は日本の骨董品雑貨の小売りから始め、やがて陶磁器の卸業へと事業を転換していきました。この事業の発展とともに、1884(明治17)年頃から、森村組は陶磁器生産に着手し、多くの製品が日本から輸出されるようになりました。



色絵盛上松オウム文皿(1891-1921年)



色絵金点盛薔薇文水注(1891-1921年)



色絵金点盛藤文双耳花瓶(1891-1921年)



色絵金点盛薔薇文チョコレートセット(1891-1921年)

第II章 オールドノリタケの世界

モリムラブラザーズでは、販売する陶磁器にアメリカ人の好みや流行を反映させるため、1895（明治28）年、ニューヨークに図案部を設け日本人デザイナーにデザイン画を描かせました。最新のファッションや流行、アール・ヌーヴォーなどの美術様式を取り入れた華やかなデザイン画は日本の森村組専属画付工場に送られ、原画に忠実に製造されました。これら花瓶、飾皿、飾壺などのファンシーウェアと呼ばれる装飾品は「オールドノリタケ」を代表する作品として人気が高く、現在でも多くの人々を魅了しています。



デザイン画帖（1905年）

第III章 デイナーウェアの誕生

モリムラブラザーズが日本陶器の創立以前から待望していたのが、ディナーウェアの製品化でした。森村組は白色硬質磁器による洋食器の製造をめざし、1904（明治37）年に日本陶器合名会社を設立、ついに1913（大正2）年、ディナー皿の焼成に成功します。翌年、日本初のディナーセット「SEDAN（セダン）」が誕生し、その後、日本陶器が製造するディナーセットはアメリカで大量の注文を受け、モリムラブラザーズの主力商品となりました。



ディナーセット「SEDAN（セダン）」（1914-1921年）

第IV章 ノリタケ・アール・デコ

1920年代の欧米ではアール・デコ様式が席卷し、モリムラブラザーズでもいち早くこの流行を取り入れたデザイン画を描かせました。アール・デコの特徴である幾何学的な模様に加え、モダンガールなど大正モダンのデザインもあり、発色の良いラスター彩を多用した花瓶や飾皿などの製品が大半を占めます。これらは「ノリタケ・アール・デコ」と呼ばれ、人気の高い魅力的な作品ばかりです。



色吹幾何学文コンボート（1920-1930年）



ラスター彩婦人図皿（1920-1930年）



左からラスター彩エジプト風文ティーポット、ラスター彩鳥文ティーポット、色吹花文ティーポット、ラスター彩花文ティーポット（1920-1930年）

第V章 テーブルウェアの変遷

ディナーセット「SEDAN（セダン）」の誕生以来、日本陶器では様々なデザインを施したディナーウェアが大量に製作されました。1932（昭和7）年にはボンチャイナの製品化に成功し、置物やディナーウェアに多用されました。

戦後の一時期、原材料や熟練技能者の不足などから戦前と同程度の品質を保つことが困難となり、暫定的に「ローズチャイナ」の商標が用いられてきましたが、1948（昭和23）年には「ノリタケチャイナ」が復活し、現代まで日本を代表する洋食器ブランドとして世界中で愛用され続けています。



ディナーウェア「ROSE CHINA（ローズチャイナ）」（1946-1948年）